2014.1.1発行(1)

PSC Report

パートナーシップ・サポートセンター

Vol.93

発行　特定非営利活動法人
パートナーシップ・サポートセンター(PSC)
〒464-0067　名古屋市千種区池下1丁目11番21号
サンコート池下4F
TEL(052)762-0401　FAX(052)762-0407
E-Mail info@psc.or.jp　URL http://www.psc.or.jp
発行人・岸田眞代

新年のご挨拶

新しい年の初めのごあいさつを申し上げます。
昨年は、パートナーシップ・サポートセンター創立15周年、日本パートナーシップ大賞「第10回」という節目を、たくさんの方と共有できましたことを心から感謝申し上げます。

同時に、これまで私たちパートナーシップ・サポートセンター(PSC)が果たしてきた役割についても、多くの方から共感とご支持をいただきました。

2014年は、そうした熱い想いや声を、どのように次代へ繋いでいくのかが問われる年になりそうです。

15周年＆「第10回日本パートナーシップ大賞」イベントに合わせて発行した『企業が伸びる　地域が活きる～協働推進の15年』には、10の「NPOと企業の協働事例」とともに、PSCの創立前後からの歩みをまとめさせていただきました。

NPO法も施行15年を過ぎました。法とともに活動してきた私たちパートナーシップ・サポートセンター。何をどう伝えていくのかを考えつつ、今年はさらに、みなさまのお知恵とお力を拝借しながら、これまで私たちに蓄積されたデータやノウハウなどをより「見える化」し、埋もれている価値を掘り起こし最大化に努めていきたいと考えています。

みなさまにとりましても、今年1年が実り多い年になりますように。

2014年元旦

特定非営利活動法人
パートナーシップ・サポートセンター
代表理事　岸田眞代

お待たせしました!

9th
日本パートナーシップ大賞事例集
「企業が伸びる
地域が活きる
～協働推進の15年」
発刊!!

協働のお手本となる10の事例とPSCの歴史を紹介しています。詳しくは６Pの書籍の紹介をご覧下さい。

第10回日本パートナーシップ大賞

長野発!タンザニアの孤児支援「フィデアのチャリティージャム事業」第10回日本パートナーシップ大賞グランプリに決定!!

「第10回日本パートナーシップ大賞」最終審査・表彰式が、11月30日(土)、中京大学(名古屋市昭和区)にて行われました。

10回目を迎える節目の大会。全国から集まった35事業の中から、一次審査、現地調査・ヒアリング調査、そして二次審査と厳しい審査を通過した５事業がグランプリを目指しました。会場には、全国から140名を超える参加者が集まり、５事業それぞれ熱のこもった最終プレゼンテーションに熱心に耳を傾け、「あなたが選ぶグランプリ」に１票を投じました。

最終審査は、過去に例のない激戦で、１点２点の動向に緊迫感が漂いましたが、厳正なる審査が行われ、グランプリその他各賞が選出されました。

グランプリは、タンザニアのエイズ孤児など身寄りのない子どもたちの支援事業を行う、長野県のNPO法人ムワンガザ・ファンデーションと株式会社サンクゼールとの協働事業「フィデアのチャリティージャム事業」。

この事業には、第10回を記念して今回特別に設けられた「トヨタスマイル賞」も同時に贈られました。(水野)

第10回日本パートナーシップ大賞

グランプリ＆トヨタスマイル賞
フィデアのチャリティージャム事業
（N）ムワンガザ・ファンデーション×（株）サンクゼール

タンザニア孤児支援活動を行うフィデアさんへの共感と賛同から始まった事業。現地で暮らす人々とのパートナーシップを大切にしながら、子どもたちが等しく、希望の光を見失うことなく生きていくことのできる未来を目指し、増え続けるエイズ孤児や身寄りのない子どもたちのための孤児院建設、運営維持等の支援事業を、企業とともに行う。孤児たちが自立できる体力と意欲、学力と就業技術を身に付けた人材に育つよう、ジャム製品が応援し続ける。

審査委員長　奥野 信宏 中京大学理事・総合政策学部 教授

壮大な事業を、1つずつ着実に進めている。社長さんはフィデアさんに会うまではボランティア精神が全くなかったということでしたが、フィデアさんに会って変わったという正直な言葉も聞けました。現地の方たちの住宅だけではなく、工場も建設して働く場も創っていきたい、医療機関も整備していきたい、10年20年非常に長い時間がかかると思いますが、完成を心待ちにしています。日本に住む私たちも、ジャム製品を通じて貢献できます。頑張って続けていってください。

受賞コメント　NPO法人ムワンガザ・ファンデーション

理事長　小林フィデアさん

植えた種が少しずつ出てきた気がします。ムワンガザというのは「光」。久世社長にジャムを作りましょう、と言われて作るようになって、いろいろな人たちが買ってくれて、それが大きな繋がりになりました。

「一期一会」。私が人生の中で本当に大事にしている言葉です。今日の出会いも大切にし、タンザニアに孤児院を建ててみなさんと行けるを、楽しみにしています。

受賞コメント　株式会社サンクゼール

代表取締役社長　久世良三さん

フィデアにみんな巻き込まれ、我を忘れて進んでまいりました。フィデアファミリーの情熱、リーダーシップ、そして何よりタンザニアで私たちが見た、本当に目を背けたくなるような貧しさや子どもたちの現状が、私たちを動かし、そしていろいろな所から支援が集まってくるようになりました。大きな夢に向かってこれからも絶対に諦めないで頑張りますので、みなさまよろしくお願いいたします。

準グランプリ＆オルタナ賞
チョコレートで児童労働をなくす協働事業
（N）ＡＣＥ × 森永製菓（株）

カカオを生産するガーナで、児童労働をなくし子どもの教育を支援する事業。企業がチョコレート製品の売上の一部をNPOに寄付し、NPOが子どもの教育とカカオ農家の技術向上を支援。生産者から消費者までが笑顔で繋がる仕組みを構築した。

審査委員　松浦 信男 万協製薬株式会社 代表取締役社長

この賞の意としているNPOと企業のがっぷり四つの連携を上手くされていると思いました。どちらかが上に立ってしまうような一方的な活動になってしまうことが多い中、このプロジェクトは両者がお互いに良い影響を与え合って良い成果をあげています。私も森永DARSを食べているので、ガーナの人たちを助けていると思うと非常に嬉しいです。

優秀賞
トヨタ・子どもとアーティストの出会い事業
（一社）AISプランニング、（N）芸術家と子どもたち、（N）アートNPOリンク、他各地実行委員会 × トヨタ自動車（株）

子どもたちが、アーティストとの出会いを通じて自分や友達の新しい面を発見し、豊かな感性と夢を育むことを目的に、NPOと企業および全国12団体が連携し実施する次世代育成事業。

審査委員 黒田 かをり 一般財団法人 CSO ネットワーク理事・事務局長

子どもたちの限りない潜在能力を引き出し、感受性を豊かにし、多様な価値観を育む。そこにアートの持つ力を向けられたのは、素晴らしいことだと感じています。トヨタ自動車が全国に持つ販売会社と、全国のNPOがネットワークをつくって、地域の中でもまた面として広がりを見せている。南三陸町の子どもたちの素晴らしい歌に感動しました。

優秀賞
市民活動を応援する場と組織づくり事業
（N）ソムニード×大和リース（株）

ショッピングセンターの建設に当たって、地域活性化を支援する場を設置し、企業とNPOでNPO法人を設立した。市民と企業のマッチングを行うなど、まちづくりに新しい風を起こしている。

審査委員　森 摂 株式会社オルタナ 代表取締役社長

全国どこにでもあるショッピングセンターのスペースを有効活用し、企業とNPOが協力して新しい組織を立ち上げられました。地域を応援する組織として成長し、地域を元気にしているところが、非常に高く評価されました。全国のショッピングセンターを繋ぐことで、全国のNPOを繋いでいきたいという発表に非常に共感できました。

優秀賞

eラーニングによる「まなび場」の展開事業

（N)アスイク×(株)すららネット、みやぎ生活協同組合

被災地で立ち上がったNPOが、eラーニングのベンチャー企業および生協と協働することで、ボランティアを大量に必要としない学習支援モデルを構築。被災地の恵まれない子どもたちに希望を与えた。他地域へのノウハウ移転も展開。

審査委員　岸田 眞代 PSC代表理事

日本の子どもの貧困率が15.7%。仙台市には貧困の子どもが約3000人以上いるとのこと。私たちが今、考えなければいけないことがたくさんあります。被災地の子どもたちにも、対話型アニメーションを使って、「わかる、できる」教育を行い、そして学習意欲をかきたて、その成果をあげている事業です。さらに全国に展開し、広がることを期待します。

《各賞及び副賞》

グランプリ（1事業）・・・・企業に盾、NPOに盾と副賞30万円
準グランプリ（1事業）・・・企業に盾、NPOに盾と副賞10万円
優秀賞（3事業）・・・・・NPOに副賞5万円
特別賞 オルタナ賞（1事業）・・NPOと企業に副賞『オルタナ』年間購読それぞれ10名様分
特別賞 トヨタスマイル賞（1事業）・・・・・NPOに副賞5万円

《協賛》

トヨタ自動車㈱　㈱デンソー　万協製薬㈱　MS&ADゆにぞんスマイルクラブ　㈱アバンセ・コーポレーション　㈱ジェー・シー・エム　(公財)中部圏社会経済研究所

ミニトーク
「調査スタッフから見たパートナーシップ大賞の裏側」

パートナーシップ大賞運営委員は見た!!?

最終プレゼンテーションが終わり審査を待つ間、運営委員として第1回からパートナーシップ大賞に携わってきた面高俊文さんと杉田教夫さんのお二人によるミニトークを開催。

本事業の非常に重要な部分である協働事業を公平に評価するための評価シートの作成や、協働の現場に足を運んでのヒアリング調査など、今まで外に出ることのなかった裏話やエピソードを披露。そして厳粛な（むしろピリピリとした？）雰囲気で行われる第1次・第2次審査委員会の様子などもユーモアたっぷりにお話しいただきました。

プレゼンテーションも終わってほっと一息の発表者や会場参加者のみなさんにも楽しんでいただけた様子で、これまでとはまた違った角度から、パートナーシップ大賞をご理解いただくよい機会となりました。（山崎）

シンポジウム
「パートナーシップ大賞から協働を考える」

「協働」の鍵は「人」の成長にある

コーディネーターの河井孝仁 東海大学文学部メディア学科教授から報告をいただきました。

第10回日本パートナーシップ大賞最終審査＆表彰式に先立ち、記念シンポジウムが行われました。

▲野田沙良さん

シンポジストは第8回グランプリ受賞NPOである（N）アクセスの野田沙良常務理事、第9回グランプリ受賞企業である万協製薬（株）松浦信男社長のお二方に加え、岸田眞代PSC代表理事が務めました。

▲松浦信男さん

このシンポジウムでは「パートナーシップ大賞から協働を考える」というタイトルにあるように多様な視点から協働が語られました。

岸田代表からは、PSCが日本パートナーシップ大賞を発足させた当時に熱く議論して構築した、協働事業評価についてスライドを使っての紹介も行われました。

そうした議論の中でも、もっとも思いを込めて述べられたことが「人」であったと思います。

協働を担う「人」がどのように成長できるのか、あるいはNPOと企業の協働事業がどのように「人」を成長させることができるのか。シンポジウムのコーディネートをするなかで、そうした可能性が次々と見えてくる様子は、とてもわくわくするものでした。

▲岸田眞代

アクセスの野田常務理事が述べられた、協働相手であった近畿ろうきんのご担当者の大切な役割、万協製薬松浦社長のおっしゃった、ともに事業を行ったNPO植える美ingで活躍した高校生たちの成長、さらに仲介者としての行政職員の重要な働き。

▲河井孝仁PSC理事

協働事業というものが確かに「現場」で行われているという具体性を持った意見交換は、私にとっても、大きな学びになる場であったと思います。

第10回日本パートナーシップ大賞 懇親会
締めくくりは、和やかに、にぎやかに

表彰式の後は、大学内のレストランに場所を移しての懇親会。奥野委員長のあいさつで開会、PSC理事の田井伸一三井住友海上火災保険(株)中部総務部長の乾杯の音頭で60名余りがグラスを合わせました。素晴らしいプレゼンテーションを披露し、グランプリを競い合った発表者の方々も笑顔で交流、受賞の喜びもお話しいただきました。

全国から協働に関わっている人たちが集まるパートナーシップ大賞。こうした交流の場で、次の協働へと繋がる出会いがあることを期待しています。(山崎)

愛知県ESD研修

グループワーク終了! ESDへの理解深まる

「自治体職員のためのESDセミナー」グループワーク(GW)の第3回～第5回は、豊橋、名古屋、一宮で開催しました。参加者は、愛知県内の自治体職員。

グループワークの前半は講師からの話題提供、後半はグループに分かれてワークショップを行いました。このワークショップでは、講師の話からの気づきを共有するとともに、「自分の部署や市町村で取り組みたいこと」について意見を出し合いました。毎回議論が白熱し、「部署に持ち帰って話し合いたい」という声も多くありました。

グループワークはこれで終了ですが、参加者の一人ひとりがESDの考え方を何らかのかたちで仕事や地域に活かしていくことを願っています。

今後は、研修内容や愛知県内の市町村の取り組みをまとめた「自治体職員のためのESDハンドブック」の作成(2月完成予定)を進めていきます。(松橋)

◀第4回、名古屋でのGW

第三回 11/12(火)	「持続可能な社会をつくるために ～多様な主体との協働による施策展開」 ●「国際理解と人権、多文化共生」 小島 祥美氏(愛知淑徳大学 准教授) 奥平 将氏(豊橋市文化市民部多文化共生・国際課長) ●「地域と企業が取り組む環境活動」 枚本 育生氏((N)環境市民ﾀ代表理事／ESD-J理事) 杉田 英俊氏(アイシン精機(株) 総務部 さわやかふれあいセンター センター長)
第四回 11/18(月)	「持続可能な社会をつくるために ～地域課題解決に必要な人としくみ～」 ●「海に触れ、海を知る」 清水 一氏(蒲郡市役所企画部情報ネットワークセンター 生命の海科学館主査) ●「学校と地域社会が連携したESDと防災教育」 及川 幸彦氏(気仙沼市教育委員会副参事)
第五回 12/5(木)	「持続可能なまちの条件～市民参加の仕組みを考える～」 ●「市民参加型まちづくり」 川合 信嘉氏(一宮市市民活動支援センター 主任) 岡本 肇氏(中部大学 中部高等学術研究所 講師) ●「ESDの理念を踏まえた教育と地域づくり」 小川 雅由氏(NPO法人こども環境活動支援協会(LEAF) 理事)

安城市「市民協働推進計画スタートアップ・プログラム」

まちづくり人(びと)養成講座

安城市のまちづくりに関心のある市民の方々と市職員とが、講義とワークショップを通して、協働のまちづくりに必要な知識や技術、役割などについて共に学びます。安城市民交流センターにて全5回。

2回目は11月17日(日)、東海大学文学部広報メディア学科教授河井孝仁さんによる「まちづくり人(びと)に求められる知識と技能～まちの資源を活かすためのコツ」。協働の手法と必要性について、大阪府「笑働プロジェクト」などの事例を交え、シティプロモーションという視点からのお話がありました。

後半のワークショップでは、安城市にある様々な課題からまちの資源を考えました。

3回目は12月7日(土)、NPO法人環境市民代表理事枚本育生さんによる「まちの資源を活かした先進都市づくり」。全国の特に環境分野における先進的な協働事例をご紹介いただき、安城市に取り入れられる可能性を探りました。後半のワークショップでは、グループごとのテーマについてのアイデア出しを行いました。本講座はこのあと後半戦、1月2月と続きます。(水野)

CSR推進事業

協働プロジェクトは、企業にとっても NPOにとっても"ワクワク"がいっぱい!

PSCが協働のお手伝いをしている、(株)真誠のCSR委員会とママのホンネ研究所の「ママのキレイを応援する"ごま"んえつプロジェクト」。ママの社会参加を進め、ママの困りごとを解決する商品を開発しようとママチームを結成しています。

新製品検討会は10月と12月の2回行われましたが、小さなお子さんを連れての大変にぎやかなも

の。ママたちからはさまざまな意見が飛び出し、2時間の検討会はあっという間に時間が過ぎるほど、みなさんはとてもいい笑顔で楽しんでいます。Facebookでもグループをつくり、いろんなレシピやアイデアを交換し合える場となっています。製品になるのはもう少し先ですが、真誠のCSRは着実に進んでいるようです。（山崎）

NPO法施行15周年

施行15年の現状と新しいステージに向けて考える

特定非営利活動促進法（NPO法）が施行されて12月1日で丸15年。それに合わせ11月28日（木）夜、東京飯田橋にて「これまでの15年、これからの15年～NPO法の新しいステージに向けて～」と題する記念イベントが開かれました。

開会挨拶のあと、リレー講演「施行15年を迎えたNPO法の現状と課題」と題して、①改正NPO法の効果と地域でのNPO法・認定NPO法人制度運用について、②行政との協働・パートナーシップについて、③震災支援について、各地の支援センターCEOらから報告されました。その後、「NPO法新しいステージに向けて」、NPOの成立・施行に尽力した辻元清美衆議院議員（NPO議員連盟幹事長）ら3議員とシーズ代表理事の松原明氏によるディスカッションが行われ、この秋超党派でNPOに関する訪米調査を行ったこと、それを受けてNPO活動の促進に向けて10の政策を提言したことなどが報告されました。（岸田）

SAVE JAPANプロジェクト

秋の自然に触れ、里山と人の関わりを実感！

【猪高緑地の秋を見つけよう!】

11月2日（土）、猪高緑地にて「都市の緑を再発見!」を行いました。講師は「都市の自然のモノサシ研究会」のみなさん。参加者は29名（スタッフ含む）。植物やトンボなどに詳しい講師と一緒に、秋の森を散策しました。心地よい空気を吸い込みながら、どんな実りがあり、どんな生き物が住んでいるのかを感じ考えた半日でした。参加者からは「赤とんぼの見分け方が良く分かった」「専門家がいないと分からない自然の魅力をたくさん知ることができた」などの感想が出されました。

【知っているかな？樹木の『なまえ』～里山の樹木～】

12月7日（土）、東山公園にて「なごやの樹木と友達になる会（里山の樹木）」を行いました。講師は「森林インストラクター会"愛"」のみなさん、参加者は61名（スタッフ含む）。午前中は東山公園内を散策して里山と人の関わりについて学び、午後からはしめ縄づくり体験を行いました。稲の束を編む作業に苦労している人も多くありましたが、講師の方に教えてもらいながらコツをつかみ、みなさんお気に入りの作品に仕上げることができました。

年4回のプログラムは、これですべて終了です。子どもからお年寄りまで多くの方にご参加いただき、大盛況のプログラムとなりました。（松橋）

PSC代表岸田の"東へ西へ"（2013年11月～12月）

11/2（土）、SAVE JAPANプロジェクトの事業に参加。名古屋市の猪高緑地をフィールドとしての研究会。久し振りにリュックを背負って歩いた。やっぱり緑の中はいいなあ。11/6（水）はもう10年以上続いているデンソーユニティサービスでのビジネスマインド研修。11/12（火）は愛知県ESD研修のグループワークも3回目。協働をテーマに豊橋での開催。第4回（11/18、名古屋）、第5回（12/5、一宮）で研修は終了。これからはハンドブックづくりへと移行する。

11/15（金）は大阪市の職員に対する協働講座で大阪へ（大阪NPOセンターからの依頼）。11/17（日）は安城市「まちづくり人講座」の第2回目。第3回（12/7）と進んだ。11/27（水）は㈱真誠 第18回CSR委員会。12/19（木）には第19回と続けてきた。来年も、形を変え継続が決まったのは、大きな成果だ。

11/28（木）、日本NPOセンター主催のCEO会議で東京へ。企業とNPOの協働に関心を持つという方から意見交換をしたいとのことで、急遽午前の時間を利用して会うことになった。もしかしたら「ヒョウタンから駒」か？夜にはNPO法15周年の記念集会が開催され飯田橋へ。11/29（金）は2011年度に実施した経産省事業の監査の立ち会いで、CEO会議もそこそこに帰名。監査は2時間程度で無事終了。

11/30（土）は記念すべき第10回日本パートナーシップ大賞。15周年を合わせて実施したため、シンポジウムなどこれまでとは少し違う構成に。参加者もかつてなく多い。みなさんがP賞やイベント自体も高い評価をしてくれ、ホッと胸をなでおろす。

◀おうみ未来塾卒塾式

12/15（日）はおうみ未来塾12期生の卒塾式で大津へ。中間発表では心もとなかったグループがきっちり立て直し、成果を挙げてきたのには感激。12/17（火）CSOラーニング定例会では学生たちにPSCの活動を紹介。12/18（水）は、「第10回日本パートナーシップ大賞」グランプリ受賞の㈱サンクゼールと（N）ムワンガザ・ファンデーションから招待を受け長野県へ。協働事業の中身をより詳しく知ることができた。信濃毎日の取材にも立ち会う。（残念ながらフィデアさんが急遽タンザニアに帰国しなければならない事態が起き、予定していた受賞報告会が延期になった）

◀長野・サンクゼールにて

（2013.12.20　岸田眞代）

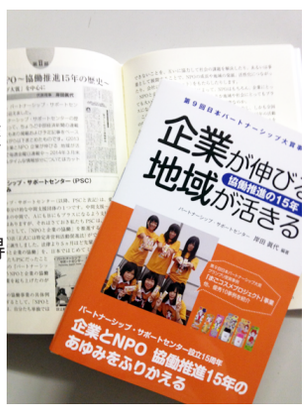
PSC PICK UP! ピックアップ

協働のヒントがびっしりつまった― PSC書籍のご案内
第9回日本パートナーシップ大賞事例集「企業が伸びる 地域が活きる ～協働推進の15年」

11月30日、第10回日本パートナーシップ大賞の日に発売した第9回の事例集。ソーシャルビジネスのモデルとなる好事例、グランプリを獲得した「まごコスメプロジェクト」事業など、第1次審査を通過した10事例が掲載されています。

協働が始まったきっかけ、紆余曲折して進んでいくプロセス、そして社会に何を落としたか…。現地ヒアリングに行った調査員がさまざまな視点から紹介しています。

第2部では、2013年7月17日に創立15周年を迎えたパートナーシップ・サポートセンターの『企業とNPOの協働推進の歴史』を、「パートナーシップ大賞」を中心に振り返っています。



表紙の写真はグランプリ獲得のNPO法人植える美ingの高校生たち。お求めはPSCかサンライズ出版、またはお近くの書店にご注文ください。(山崎)

定価:1,575円(本体価格1,500円)
発売:サンライズ出版／A5判　総146ページ

中部経済新聞掲載「企業とNPO　企業が伸びる地域が伸びる」

岸田眞代PSC代表理事が、9月6日より毎週金曜日、中部経済新聞に「企業とNPO 企業が伸びる 地域が活きる」を掲載しています。

創立15周年を迎えたPSCの、協働推進とともに歩んできた歴史を振り返り、団体設立の経緯、第1回パートナーシップ大賞が開催されるまそして、企業のCSRを進める現在まで、読み物としても大変面白い内容になっています。

来年3月末まで計29回連載の予定です。過去の掲載データもありますので、読んでみたい方はぜひPSC事務局までご連絡ください!　(山崎)

OPINION
ヒーター
企業とNPO
会社が伸びる 地域が活きる
協働の国際支援でGP獲得
フィデアのチャリティージャム事業

PSC 主な活動2013年11月~12月

11/1(金)	定例事務局MTG、真誠×ママ研MTG
11/2(土)	SAVE JAPAN プロジェクト③(猪高緑地)
11/5(火)	大阪NPOセンター来所
11/6(水)	デンソーユニティサービス研修
11/11(月)	第3回理事会
11/12(火)	愛知県ESD研修グループワーク③(豊橋)、中京大学懇親会場下見
11/13(水)	経済産業省中部経済産業局来所
11/14(木)	中部ESD拠点ワークショップ②
11/15(金)	大阪NPOセンター大阪市職員向講座(講師)
11/17(日)	安城市まちづくり人(びと)講座②
11/18(月)	愛知県ESD研修グループワーク④(名古屋)
11/20(水)	ボタンCafé 運営会議
11/21(木)	豊明市協働推進委員会③、SV会議
11/26(火)	カフェ・アイリス運営会議
11/27(水)	㈱真誠 CSR委員会⑱
11/28(木)	NPO法施行15周年記念イベント(東京)、CEO会議(～29日・東京)
11/29(金)	会計検査院監査(2011年度経産省事業)
11/30(土)	第10回日本パートナーシップ大賞(記念シンポジウム・最終審査＆選考会)、第9回事例集「企業が伸びる 地域が活きる 協働推進の15年」発行
12/3(火)	定例事務局MTG
12/5(木)	愛知県ESD研修グループワーク⑤(一宮)
12/7(土)	安城市まちづくり人(びと)講座③、SAVE JAPAN プロジェクト④(東山公園)
12/8(日)	EPTとことんトーク
12/12(木)	中部ESD拠点ワークショップ③
12/13(金)	愛知県NPOと行政の協働に関する実務者会議第1WG、日本NPOセンター来所、なごや環境大学共育ゼミ(面接官)
12/15(日)	おうみ未来塾12期生卒塾式
12/17(火)	CSOラーニング定例会
12/18(水)	第10回日本パートナーシップ大賞グランプリ受賞懇話会(長野・サンクゼール)
12/19(木)	㈱真誠 CSR委員会⑲、SV会議
12/24(火)	三品税理士来所
12/25(水)	カフェ・アイリス運営会議
12/26(木)	ボタンCafé 運営会議
12/27(金)	仕事納め
12/28(土)	年末年始休暇(～5日)

編集後記

「倍返し」にも「じぇじぇじぇ!」にもハマることなく、すっかり乗り遅れてしまった2013年。今年はもっと世の中の動きに敏感にならなくては(*^_^*)(水野)

長期にわたって作成していた事例集がようやく完成!みなさまにお届けすることができました。と、ほっとするのもつかの間。第10回の事例集は初夏までの完成を目指します。(山崎)

１年ほど前から「糠(ぬか)漬け」に凝っています。古い糠に新しい糠を足すことでどんどん美味しくなる―。とても奥深いですね。今年もどうぞよろしくお願いいたします。(松橋)

明けましておめでとうございます。久々に日本パートナーシップ大賞に出席して、とても感動しました。早速ジャムを購入してしまいました。(松本)